

延岡市学校教育研修所

I	研究主題と副題	・・・・・・・・	12 - 1
II	主題設定の理由	・・・・・・・・	12 - 1
III	研究の目標	・・・・・・・・	12 - 1
IV	研究の仮説	・・・・・・・・	12 - 1
V	研究組織	・・・・・・・・	12 - 2
VI	研究の全体構想	・・・・・・・・	12 - 2
VII	研究内容		
1	基本的な考え方	・・・・・・・・	12 - 3
2	国語科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 4
3	社会科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 5
4	算数・数学科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 6
5	理科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 7
6	外国語活動・外国語科研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 8
7	ICT 研究班の取組	・・・・・・・・	12 - 9
VIII	成果と課題	・・・・・・・・	12 - 10
	○ 引用・参考文献		
	○ 研究同人		

I 研究主題と副題

「確かな学力を身に付けた児童生徒の育成」
～教科等における言語活動の充実と ICT の効果的な活用を図る授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

1 学習指導要領の改訂から

中央教育審議会答申(平成 20 年 1 月 17 日)では、「言語は、知的活動(論理や思考)だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」とし、「学校が各教科等の指導計画にこれらの言語活動を位置付け、各教科等の授業の構成や進め方自体を改善する必要がある」と提言している。

また、答申の中で、「習得・活用・探究」という考え方が示された。各教科等では、基礎的・基本的な知識・技能を「習得」とするとともに、観察・実験をしてその結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を「活用」する学習活動を行う。これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実させることが大切である。

言語活動の充実を進めていくことは、授業改善に深くつながる。児童生徒が自ら課題を設定し、思考したり判断したりしながらそれらを解決していく授業を構成する上では、児童生徒自身の言語活動を活発なものにしていくことが必要である。

2 延岡市教育委員会の教育施策から

延岡市教育委員会においては、『わかあゆ教育プラン』を策定し、延岡市の「未来をひらく人づくり都市宣言」を基本理念とし、義務教育 9 年間を通した小中一貫教育と教育コミュニティではぐくむ教育を積極的に推進している。中でも「確かな学力をつける教育の推進」を重点的な取組として、「学力向上」「理数教育の充実」「読書教育の推進」を進め、「レベルアップ延岡」学力向上協議会を中心に、小中連携による学力の分析と具体的な到達目標の設定、実践・検証を進め、学力向上の改善策を探っている。また、教職員の資質向上を図るために、学校教育研修所の研修活動の充実が進められ、より実践的な研究が期待されている。

3 延岡市学校教育研修所の役割と責任から

過年度の計算力向上と「読む力」の伸長、家庭学習の充実の取組等、学力向上を支える研究と実践の積み重ねを土台として、新学習指導要領実施に伴い、新たな授業づくりに焦点を当て、言語活動の充実のための手立てと方策、習得と活用の考え方を究明し、市内の先生方へ情報提供及び授業提案を軸とした実践的な研究を進めてきた。

本年度は、昨年度までの研究を継続して進めるとともに、「ICT の効果的な活用」を新たな視点に加えた授業づくりに焦点を当て、授業提案を軸とした実践的な研究を進めることにした。

国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科、ICT の 6 つの班を編制し、それぞれの教科等の特性を生かした研究を進め、ICT の効果的な活用を含めた授業公開はもちろん、授業改善の考え方、手立てについても提案していく。

このことによって、すべての学校で授業改善が図られ、児童生徒の学力が向上し、本市教育の充実・向上に資することができると思う。

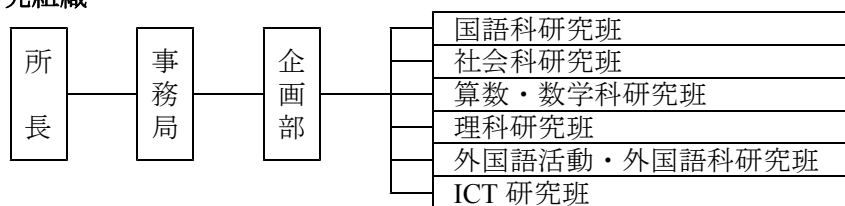
III 研究の目標

- 1 児童生徒の学力(知識・技能の習得及び知識・技能を活用した高め合い)を向上させるための方策について、教科等(国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科)の特性を生かした言語活動の充実の在り方を探るとともに、ICT の効果的な活用を図る。
- 2 延岡市内小中学校全体の授業の質を向上させるために、「授業モデル」を構築し、授業研究会を通して成果を広める。

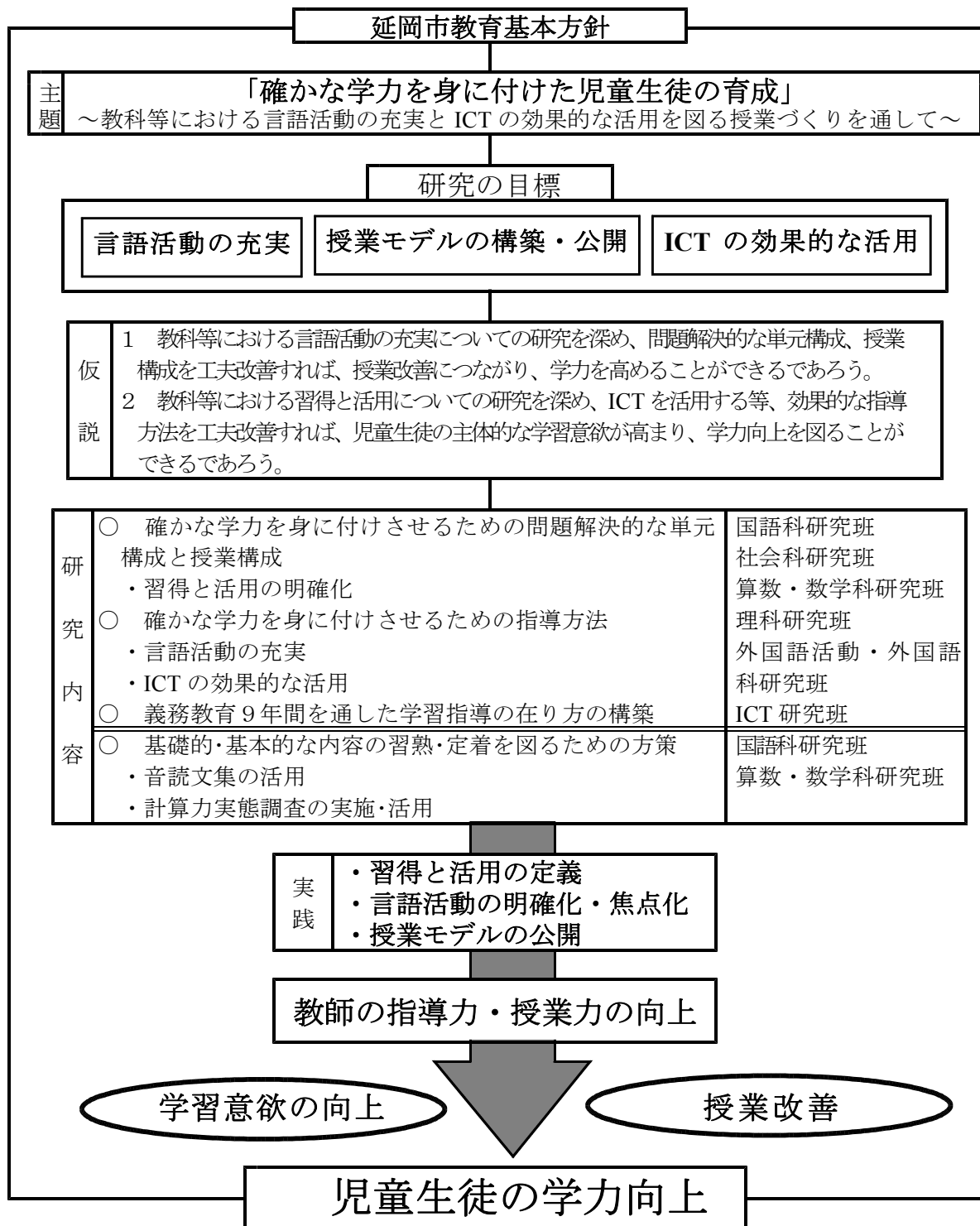
IV 研究の仮説

- 1 教科等における言語活動の充実についての研究を深め、問題解決的な単元構成、授業構成を工夫改善すれば、授業改善につながり、学力を高めることができるであろう。
- 2 教科等における習得と活用についての研究を深め、ICT を活用する等、効果的な指導方法を工夫改善すれば、児童生徒の主体的な学習意欲が高まり、学力向上を図ることができるであろう。

V 研究組織



VI 研究の全体構想



VII 研究内容

1 基本的な考え方

(1) 習得と活用の定義

確かな学力を育成するために、各教科では基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、知識・技能の活用を図る学習活動を充実することが求められた。そこで、本研修所では、次のように習得、活用について定義付けを行った。

習得 ～ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせること。「知識」を詰め込むのではなく、「知識」の意味内容を身に付けさせる。
活用 ～ 習得した知識・技能をより現実的な、あるいは複雑な事態において使うこと。（「理解」の確認は、自分の「理解」をことばによって、文章で表現させることで可能になる。）

(2) 学習過程における活用

授業の中で活用として、次のような学習活動が考えられる。

- ・ 知識を利用する。
- ・ 知識を生かす。
- ・ 知識を当てはめる。
- ・ 知識を比べて考える。
- ・ 知識をまとめて表現する。

教科の学習過程には2つの活用が考えられる。1つ目は、習得した知識を確かなものにするための活用である。（以後、活用①）もう1つは、習得した知識から、深まった課題を発見したり、日常生活への適用を図ったりするための活用である。（以後、活用②）

活用①では、1単位時間あるいは1単元において、学んだ知識を活用する様々な場面において適用できる程度に意味理解を伴ってしっかりと深く理解することが必要である。活用②では、1つの与えられた問題解決場面において、既習知識の中からどの知識が今取り組んでいる問題に有効であるかを考え、適切な知識を選択し、活用することが必要である。

(3) 「活用」と「思考力・判断力・表現力」との関係

学習指導要領総則では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」と述べている。このことから、「思考力・判断力・表現力その他の能力」をはぐくむための学習の場における活動を「活用」ととらえることができる。

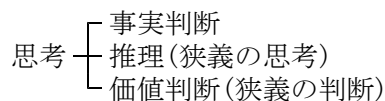
ここで、思考力・判断力・表現力の関係を整理しておく。広義の思考力には、事実判断、推理、価値判断が含まれる。

事実判断とは、観察して事象を読み取る、数値・図表・文書等から事象を抽出することである。思考するためには材料が必要であり、事実判断はその材料を抽出する能力のことである。

推理は、事象同士の関係結び付けるはたらきである。狭義の思考は、これにあたる。これは、主に活用①の場面ではたらく思考である。

価値判断とは、経験や知識の蓄積によって複数の結果が得られたときに、ねらいに即して選択を行うことである。狭義の判断はこれにあたる。これは、主に活用②の場面ではたらく思考である。

表現力は、事実判断、推理、価値判断のいずれにおいても欠かせないものである。思考の結果は何らかの形で他に伝えることが必要である。その手段が表現力である。その表現力を伴った学習活動が言語活動である。



(4) 「活用」と「言語活動」

前述のように、活用することは広義の思考力を高めることであり、そのためには言語活動は欠かせないものである。学習活動に言語活動を取り入れるだけでは、言語活動の充実が図られたことにはならない。大切なことは、言語活動を行うことで、児童生徒の思考力、判断力、表現力等が育成されたかどうかということである。

(5) 言語活動の充実

言語活動の充実には、言語活動を通して児童生徒の考えの深まりが見られることが重要である。つまり、児童生徒が自分の考えを吟味、熟考、評価することが必要となる。

言語活動の充実を図るための主な方法として、以下のような学習活動が挙げられる。

- ・ 他の意見と聞き比べる（違いに気付く）
- ・ 他の意見を取り入れる
- ・ 考えを再構成・再構築する
- ・ 自分の考えの変容を振り返る（自己評価する）等

言語活動を授業の中に取り入れるだけではその充実を図ることはできない。学習のねらいを達成するためにふさわしい言語活動を選び、その方法と目的を児童生徒に確実に伝えるなければならない。

2 国語科研究班の取組

〈習得と活用の定義〉

- 「習得」～ 日常生活や社会生活に必要なとなる国語の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けること。
- 「活用」～ これまでに身に付けた国語の能力を用いて、自分の考えを深めたり表現したりすること。

〈言語活動の明確化〉

自分の考えを表現したり深めたりするために必要とされる活動とその適切な選定

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（中学校第1学年「根拠を明確にして書こう」）

言語活動の充実を図るために、既習事項をもとにした感想交換の視点を示して、友だちの意見文に対する評価をし、優れているところやアドバイス等を具体的にメッセージカードに書かせて交流した。また、感想交換や全体での話し合いをもとに、より説得力のあるものできないか、自分の意見文を再構成・再構築させる時間も確保した。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>3 感想交換の3つの視点を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主張・根拠・結論の文章構成になっているか。 ◎ 根拠が具体的に述べられ説得力があるか。 ○ 分かりやすい文章で書かれており誤字や脱字はないか。 <p>4 グループで意見文を読み合い、感想を交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内で順次読み合い、感想をメッセージカードに書いて交流することを説明する。 ○ 感想交換の3つの視点を確認し特に、示された根拠について説得力がある、またはないと感じた理由を具体的に挙げて助言することを伝える。 ○ グループでの感想交換が適切に行われているか観察、指導する。 	<p>T：3つの視点をもとに、友だちと意見文を読み合って、感想を交換しましょう。</p> <p>T：友だちの意見文を読んで感想交換の視点が押さえられているか評価しましょう。そして、優れているところやアドバイス等を具体的に書いて伝えましょう。</p>
	<p>【活用】書いた意見文を互いに読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめ合うことができる。</p> <p>【言語活動】友だちの意見文を読んで、根拠に説得力がある、またはないと感じた理由を具体的に述べている。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">グループにおける 言語活動の充実</p>
<p>5 クラス全体で話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数名の生徒に代表して、意見文を全体で発表させる。 ○ 同じグループの生徒に感想を述べさせた後、クラス全体でも、述べられた根拠について妥当かどうか、説得力があるかどうかの検討を行う。 	<p>T：共通した項目を挙げて比較しているところがとても分かりやすいですね。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">全体における 言語活動の充実</p>
<p>6 自分の意見文を見直す。</p> 	<p>【活用】グループでの感想交換や全体での話し合いで気付いたことを自分の表現の参考にして、より説得力のあるものに仕上げるができる。</p> <p>【言語活動】感想交換や話し合いをもとに、より説得力のある意見文に再構成・再構築させる。</p>	<p>T：友だちからもらったメッセージカードや全体での話し合いをもとに、自分の意見文を見直しましょう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">自分の考えの 再構成・再構築</p>

(2) 成果と課題

- 意見文を書く際に必要な文章構成や根拠の示し方などを、感想交換の視点として示したことで、評価する視点が明確になり、言語活動の充実につながった。また、自分の意見文を再構成・再構築する際の有効な手立てとなった。
- 書き直した意見文をもう一度読み合い、再評価してもらうなど、すべての生徒が達成感を味わえるような言語活動の工夫を、今後さらに追究していきたい。

3 社会科研究班の取組

〈習得と活用の定義〉


- 「習得」～ 社会的な事象に関する基礎的・基本的な知識・概念や技能を確実に身に付けること。
- 「活用」～ 習得した知識、概念や技能を用いて考えたり、説明したり表現したりすること。

〈言語活動の焦点化〉

問題解決的な学習の過程において、調べたことや考えたことを、自分の言葉で書いたり、説明したりすること。

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（小学校第5学年「水産業のさかんな静岡県」）

言語活動の充実を図るために、個人思考→集団思考→個人思考（再構成・再構築）という流れで学習活動を展開した。特に、習得した知識を活用して、生産者の立場に寄り添いながら手紙形式にまとめることで、確実な習得につなげることができると考え、授業改善に取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>3 養鰻について予想する。</p> <p>(1) 映像を見て気付くこと</p> <p>(2) 映像を見る視点の確認</p> <p>(3) 再度、映像の確認</p>	<p>【習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水温は30度である。 ○ モーターを回し、酸素を送っている。 	<p>T：映像から分かることを記録しよう。</p>
<p>4 養鰻について調べる。</p> <p>(1) 小グループでの確認、話し合い</p> <p>(2) まとめた意見の発表</p>	<p>【言語活動】</p> <p>教科書や資料から分かる工夫や努力していることをグループで話し合い、まとめることができる。</p>	<p>T：映像や資料を根拠にして、分かったことを班でまとめましょう。</p> <p>T：友だちの意見と自分の意見を比べて、自分の意見に付け加えましょう。</p>
<p>5 養殖業に携わる方々へ手紙を書く。</p> <p>(1) ワークシートに記入</p> <p>(2) 意見の発表</p>	<p>○ 調べて分かったこと、学んだことをまとめられるようにワークシートを配付する。</p>	<p>T：分かったことを整理し、養殖業に携わる方々へ手紙を書きましょう。</p>
	<p>【活用】</p> <p>学んだことをまとめ、養殖業に携わる方々の気持ちを考えた手紙を書くことができる。</p>	<p>習得した知識を整理し、生産者の立場に寄り添いながら、自分の考えの再構成を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">確実な習得</p>

(2) 成果と課題

- 資料を根拠に習得した知識を友だちと話し合いながら確認することは、確実な習得につながるとともに、活用段階で自分の考えをまとめる際に多くの児童の一助となっていた。
- 言語活動をより充実したものにするために、資料の提示方法やその内容、1単位時間内で提示すべき情報量については、さらなる研究が必要である。

4 算数・数学科研究班の取組

<習得と活用の定義>




- 「習得」～ 計算力、用語・記号などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けること。
- 「活用」～ 習得した知識・技能をもとに考えたり、根拠を明らかにして表現したりすること。

<言語活動の焦点化>

問題解決的な学習の過程において、言葉や数、式、図、表などを用いて、根拠を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく説明したり、表現したり、伝え合ったりすること。

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程 (小学校6年生 「図形の拡大と縮小」)

言語活動の充実を図るため、個人思考(式・図・デジタル教科書等を用いて考える)→集団思考(式や図等を説明し合いながら学び合う)→個人思考(考えの再構成を行う)という流れで学習を展開した。特に再構成・再構築する段階を大切にすることが、確かな習得につながるものであると考えた。指導と評価の一体化を図るため、思考の変化が見える手立てとして青ペンで書き加えを行うようにした。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>3 学習の見通しを立てる。</p> <p>(1) 既習事項を想起する。</p> <p>① 何を3倍にするのか。</p> <p>② 合同な図形のかき方。</p> <p>(2) 小集団ごとに考えを出し合う。</p> 	<p>○ 「何を3倍にするのか」と意図的に発問し、解決の見通しをもたせる。</p> <p>○ 合同な図形のかき方について、デジタル教科書を用いて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【活用】 図形の拡大の意味や合同な図形のかき方を活用して、方眼紙がなくても拡大図をかくことができる。</p> </div>	<p>T1: 何を3倍にするのですか。</p> <p>S: 辺の長さです。</p> <p>T1: 角の大きさは3倍にしなくても?</p> <p>S: 角の大きさを3倍にしたら形が変わってしまうのでだめです。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">本時学習への見通し</p> <p>T1: 今日は方眼紙が使いません。これまでに習ったことで、使いそうなことはありませんか。</p> <p>S: 合同な図形のかき方です。</p> <p>T1: (デジタル教科書を使って)合同な図形のかき方には3つの方法がありました。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">既習事項の確認</p>
<p>4 問題を解決する。</p> <p>(1) もくもくタイム</p>  <p>(2) なるほどタイム</p> 	<p>○ 児童の学習の進み具合を見極め、個別に支援する。</p> <p>○ 特別支援学級担任とのTT指導により、個別支援を充実する。</p> <p>○ 合同な図形のかき方がどうしても思い出せない児童を対象に、デジタル教科書のアニメーション機能を活用し、想起できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】 拡大図のかき方について、既習事項を活用しながら順序良く説明をすることができる。</p> </div> <p>○ 実物投影機で、ワークシートを提示しながら発表できるようにする。</p>	<p>【個人思考 もくもくタイム】</p> <p>T1: この辺の長さは3倍にできたね。次は角をかくけど、大きさはどうしようか。</p> <p>S: 1通りかけたら、次のかき方かいいですか。</p> <p>T2: 合同な図形のかき方をおさらいしよう。(デジタル教科書のアニメーション機能の活用)</p> <p>【集団思考 なるほどタイム】</p> <p>S: (拡大図のかき方を説明する)</p> <p>S: 例えばこの 60° の角を3倍にしたら、180° になって三角形になりません。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">自分の考えの再構成・再構築</p>
<p>5 自分の考えを再構成・再構築する。</p>		

(2) 成果と課題

- 既習事項をていねいにおさえたことで、本時学習の見通しをもつことができ、解決の手立てとして大きく役立っていた。
- 児童同士の教え合いが、意欲の持続につながり、多くの児童が自力解決につながっていた。
- 解決の見通しをもたせるための手立てとして、拡大図、縮図の大体の形をつかませるために図形をフリーハンドでかく作業等に取り組ませるなどさらなる工夫が必要である。
- ICT活用の場面で、本時のような活用以外にどんな活用があるのかを検討する必要がある。

5 理科学研究班の取組

〈習得と活用の定義〉



- 「習得」～ 科学に関する用語や概念、技能を正確に身に付けること。
- 「活用」～ 科学的な言葉や概念、技能を用いて考えたり説明したりすること。

〈言語活動の焦点化〉

問題解決的な学習の過程において、自分の考えを科学的な言葉を用いた文字言語・音声言語で説明すること。

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程 (中学校第2学年「生命を維持するはたらき」)

言語活動の充実を図るために、個人思考→班・全体での話し合い→個人思考 (再構成・再構築) という流れで学習活動を展開した。最初の個人思考を充実させることが班での話し合いを深めることにつながると考え、映像を使いながら前時の復習を行うようにした。また、思考の変化が見える手立てとして、話し合いの際に参考にした意見を青ペンで記入させるようにした。考察の時には、キーワードの提示を行い、科学的な言葉を用いて説明する活動につなげるようにした。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>4 実験結果を分析し、解釈する。</p> <p>(1) 個人による思考</p> <p>(2) 班での話し合い</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 唾液を入れたAと水を入れたBを比較した対照実験の結果をもとに、唾液のはたらきについて考えさせるために、キーワードの提示を行う。 ○ 適切に話し合い活動が行われるように机間指導を行う。 <p>【言語活動】</p> <p>班での話し合い活動と、他の班の意見を聞くことを通して、結論の吟味・熟考を行う。話し合いの際に、参考にした意見は青ペンで記入する。</p>	<p>T : AとBの違いは何ですか?</p> <p>S : Aには唾液、Bには水が入っています。</p> <p>T : AとBについては、ヨウ素溶液とベネジクト溶液の2つの試薬を使ったので、それぞれを比べながら、実験結果をもとに根拠を書きながら唾液のはたらきについて考えましょう。また、4つのキーワードを使って説明をするようにしましょう。</p> <p>S : (ワークシートに個人の意見を記入する。)</p> <p>T : 自分の意見をもとに班での話し合いを行ってください。</p> <p>S : (班での話し合いを行い、班の意見をまとめる。)</p>
<p>5 各班の発表を聞き、自分の意見を再構成・再構築する。</p> 	<p>【活用】</p> <p>実験結果を分析し、解釈した意見の再構成・再構築を行い、唾液のはたらきについてデンプンの変化を考えながら説明できる。</p>	<p>T : 各班の意見を発表してください。</p> <p>S : (代表者が班の意見を発表する。)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">結論の吟味・熟考を行う。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の意見の再構成・再構築を行う。</div>

(2) 成果と課題

- 個人思考でじっくりと考え、集団思考で意見交換した後に、再度、個人思考を行うことにより、本時の学習内容をより深く理解することができた。
- 班編制を工夫したことで、教え合いや高め合いにつながった。
- 時間をとって個人・班での活動を行うことで、全体での意見に深まりが見られたが、その全体の意見をもとに自分の意見を再構成・再構築する時間の確保が難しかった。
- 小学校の学習内容との関連をしっかりと把握し、活用することが大切であった。

6 外国語活動・外国語科研究班の取組

＜外国語活動における習得と活用の定義＞

外国語活動の特性から、「習得」「活用」を「慣れ親しむ」「伝え合う」とした。


- 「慣れ親しむ」～ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだり言葉の面白さや文化の相違に気付いたりすること。
- 「伝え合う」～ 慣れ親しんだ表現を使って、自分の思いを伝えたり相手の思いを理解しようとしたりすること。

＜言語活動の明確化＞

外国語に慣れ親しんだり、言葉の面白さや豊かさに気付いたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を育てるための体験的な活動

(1) 言語活動の充実を図る学習指導過程（第5学年 Lesson 4 I like apples.）

言語活動の充実を図るために、本時の最後に伝え合う活動として「ランキングゲーム」を設定した。必然性のある会話とゲーム的要素を取り入れることで、楽しみながらコミュニケーションを図ることができると考えた。また、よりよいコミュニケーションの態度や友だちについての新たな発見について伝え合うことで、さらなるコミュニケーションへの意欲につながると考えた。これらのことが、外国語への慣れ親しみや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる上で大切になると考え、授業改善に取り組んだ。

学習内容及び学習活動	教師の支援	授業経過
<p>7 ランキングゲームをする。 〈ゲームの流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ジャンケンをする。 ② 勝った人から、好きな果物と嫌いな果物を言う。 ③ クラスの好きな果物ベスト3を予想する。 ④ クラスの好きな果物ベスト3を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームの目的を知らせ、代表児童とデモンストレーションをする。 ○ 伝え合い方の上手な児童を紹介し、気持ちのよいコミュニケーションの仕方に気付かせる。 ○ 一緒に活動し、児童へのフォローや称賛をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【伝え合う】(活用) I like ～. I don't like ～.の表現を使って、好きなものや嫌いなものを伝え合う。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動】 〈ランキングゲーム〉 ベスト3を予想するために、友だちとのコミュニケーションを通して情報を集める。</p> </div>	<p>C1: Rock, Scissors, Paper, 1, 2, 3!</p> <p>C2: I like strawberry. I don't like lemon. How about you?</p> <p>C1: I like melon. I don't like lemon.</p> <p>C1, C2: Thank you. See you.</p> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちとインタビューし合って、互いの好きな果物や嫌いな果物を伝え合う。</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>外国語への慣れ親しみ コミュニケーションへの意欲</p> </div>
<p>8 ふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想 ○ 振り返りカード 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの態度や新たな発見などについての感想を発表させ、称賛する。 	<p>C: ○○君がメロンを嫌いなことを初めて知った。</p> <p>C: ○○さんの英語の発音が上手でした・・・</p>

(2) 成果と課題

- ランキングゲームに至るまでに、キーワードゲーム、集中力ゲームなどのゲームを通して表現を繰り返したことで、本活動にスムーズに入ることができた。
- ランキングという児童の興味をひく活動で、自分の思いをしっかりと伝え、相手のことも聞かなければならないように仕組んだことで、多くの友だちとインタビューをしようとする積極的に活動する姿が見られた。また、友だちの新たな一面の発見につながった。
- より多く様々な友だちとインタビューできるように、グループ内→自由に動いて等のような活動の場の工夫についても、児童の実態に応じて今後改善していきたい。

7 ICT 研究班の取組

(1) 基本的な考え方

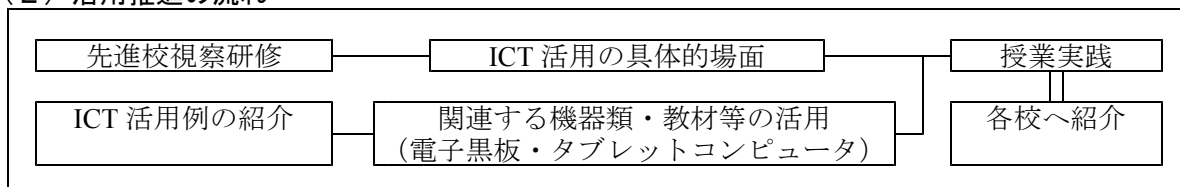
ア ICT 教育における習得と活用

ICT 教育は児童生徒の学力向上を推進するために行い、授業における効果的な機器等の活用を通して、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせること（習得）と、各教科及びその他の活動において児童生徒の思考を手助けしながら、児童生徒が習得した知識・技能を使えるようにすること（活用）を基本とする。



イ 延岡市における ICT 教育の推進

本研究班においては、それぞれの機器を整えることやデジタル教材等を利用することによって授業における指導の幅が広がり、教科指導の工夫改善が図られることを、先進校の具体例をもとに紹介し、延岡市における ICT 教育の実践を推進する研究を行う。

(2) 活用推進の流れ



(3) 授業場面における活用例

段階	学習活動及び ICT の活用例	効果	ICT 機器・教材	
導入	1 前時の振り返りをする ・教科書や資料の拡大表示 ・フラッシュ型コンテンツ ・実物の投影表示 ・動画等の再生	・前時の学習内容を振り返らせ、学習に対する動機づけを行うことができる。	(ICT 機器) ・コンピュータ ・大型 TV ・電子黒板 ・プロジェクター ・e 黒板 ・実物投影機 ・CD・DVD プレイヤー ・タブレットコンピュータ ・デジタルカメラ ・ビデオカメラ ・ボイスレコーダー (教材) ・市販の教材ソフト ・デジタル教科書 ・Web サイト ・デジタルコンテンツ 	
	2 課題を把握する ・教科書や資料の拡大提示 ・プレゼン教材の提示	・本時の学習に関連することを視覚的にとらえさせることで、学習の雰囲気・興味を高めることができる。		
展開	3 課題を調べ・深める ・ヒントとなるコンテンツの表示 (挿絵・文字の拡大) ・動画、音声の再生 ・インターネット検索	・文字や資料等で学習問題を視覚的にとらえさせることができる。		
	4 伝え合う ・ノートやプリントの拡大 ・プレゼンを使った発表	・シミュレーションや動画を用いて説明したり、疑似体験をさせたりすることにより、理解を深めることができる。		
	5 練り上げる ・ノートやプリントの拡大 ・比較物の表示	・実物投影機等で資料やノートを拡大しながら説明することで、児童の表現力を高めることができる。		
	6 解決する ・思考を支援するコンテンツの表示 ・実物投影機での表示			
まとめ	7 確かめる ・確かめ問題の表示	・ドリル教材等を活用することで、知識の定着を図ることができる。		
	8 まとめをする ・教科書やノートなどのまとめの部分を拡大表示 ・フラッシュ型コンテンツ ・プレゼン教材の提示	・学習のまとめを視覚的に提示することで、知識の定着を図ることができる。		

(4) ICT 授業実践

教科	単元 (場面)	機器・教材	活用
国語 (中学校) 1年	根拠を明確にして書こう (導入)	・大型 TV ・ PC	・板書する時間が省略でき、短時間で前時までの学習内容の振り返りを行った。
社会 (小学校) 5年	水産業のさかんな静岡県 (導入、展開)	・大型 TV ・実物投影機 ・デジタルビデオカメラ	・画像を見せて児童の予想を聞き、全体に問いかけた。 ・映像から捉えた発見を賞賛しながら、学習課題を導いた。

算数 (小学校) 6年	図形の拡大と縮小 (展開、まとめ)	・大型TV ・実物投影機 ・デジタル教科書	・児童の記録したワークシートを拡大提示し、全体に示した。 ・デジタル教科書のコンテンツで、児童の理解を補助した。
理科 (中学校) 2年	生命を維持するはたらき (導入、展開)	・大型TV ・PC ・教材提示装置	・前時の実験の様子を映像で提示し、振り返りを行った。 ・各班で思考したものを大画面に提示しながら説明させた。
理科 (中学校) 2年	大気中の水蒸気 (導入、展開、まとめ)	・電子黒板 ・フラッシュ型教材 ・タブレットコンピュータ ・デジタルコンテンツ	・前時の振り返りをテンポ良く大きな声で行った。 ・生徒の発表や学習のまとめを視覚的に提示した。
外国語 (小学校) 5年	lesson 7 What's this ? クイズ大会をしよう (導入、展開)	・大型TV ・PC ・デジタル教材	・視覚的にイラストを提示しチャンネルをテンポ良く行った。 ・耳慣れた表現を聞き取れているかを確認した。

(5) 成果と課題

- 先進校等の活用例を参考に小学校と中学校における実践を行い、授業公開を通してICT活用場面を紹介することができた。
- ICTを活用することによって、児童生徒が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- ICTを授業をつくるツールとしてとらえ、魅力ある授業づくりを行っていくとともに、機器が常設された環境を整備する必要がある。

VIII 成果と課題

1 成果

- 児童生徒が言語活動を行う際の拠り所となるような評価の視点を授業の中で与えたり、学習指導過程において、個人思考→集団思考→個人思考（再構成・再構築）という段階を設定したりすることによって、言語活動の充実を図ることができた。
- ICT教育に関する先進校視察研修などを通して、本市におけるICT教育の推進のための方向性が見えてくるとともに、授業公開の中で実践例を紹介することができた。

2 課題

- 言語活動をより充実させるための学習指導過程の工夫や資料提示の工夫などについてさらに研究を深めていく必要がある。
- ICTを授業をつくるツールとして活用してより魅力ある授業作りを進めていくとともに、教材や資料がネットワーク接続等により常に利用できるような環境を整えていく必要がある。

○ 引用・参考文献

文部科学省：『学習指導要領』（小学校・中学校・総則編・解説） 2008
 文部科学省：『初等教育資料』 東洋館出版社 2011
 文部科学省：『言語活動の充実に関する指導事例集』 2011
 宮崎県教育委員会：平成23年度カリキュラム創造ワークショップ資料
 兵庫教育大学（株）ベネッセコーポレーション共同研究プロジェクト室
 『活用型学習の指導方法及び評価方法の研究』 2010
 水戸部修治（株）教育開発研究所：『言語活動モデル事例集』 2011
 熊本県人吉市立中原小学校研究紀要
 小林市立東方小学校研究紀要
 小林市立東方中学校研究紀要
 延岡市教育委員会：『わかあゆ教育プラン』 2013

○ 研究同人

延岡市学校教育研修所 所長 橋本 慎朗
 延岡市学校教育研修所 事務局長 平田 博司
 指導主事 西村 浩一郎
 常任研究員 統括主任 高城 克洋（土々呂小学校）
 岡田 京子（東海東小学校） 稲田 保尚（東小学校） 上森 美樹（旭小学校）
 平原 知美（南方小学校） 乙倉 千恵美（東海小学校） 三樹 陽子（南方中学校）
 緒方 久恵（土々呂中学校） 下津 謙之（浦城中学校） 山元 裕司（緑ヶ丘小学校）
 寺坂 博志（川島小学校） 今坂 嘉恵（岡富中学校） 湯浅 泰晃（北方小学校）
 川崎 直人（恒富小学校） 黒木 知佳（北川中学校） 中野 克洋（北方中学校）
 長友 良仁（旭中学校） 甲斐 由起子（一ヶ岡小学校）